



相原病院

副院長

あいはらともひこ
相原智彦

乳がんの病状はひとりひとり異なるため、最適な治療法を選択し、丁寧なフォローを行うことは簡単なことではありません。

当院では専門医により世界的に標準とされる治療法を行い、専門看護師を中心とした看護チームと薬剤師が外来と病棟の切れ目なくひとりひとりを丁寧にフォローする体制を整えています。これにより、外来と病棟が分断されている大病院では困難である丁寧な手術前後のケアや、抗がん剤治療や長期にわたるホルモン治療の副作用の管理ができるようになりました。さらには、術後しばらく経過した患者さんに向けてグループワークを行ったり、リンパ浮腫に対して理学療法士によるリンパドレナージを行うなど、治療の質を高める取り組みをしています。

他の専門医と連携を取り、最適な治療法を選択できるのも特徴といえます。例えば、乳房切除が必要な方は、乳房再建を専門とする形成外科医と連携をとり、ティッシュエキスパンダーを使用した一期再建を行ったり、二期再建手術を受けていただく体制

をとっています。放射線治療は治療される方の利便性を考えた上で、専門施設と連携を行います。また、浜松オンコロジーセンターと鹿児島相良病院との多地点ウェブカンファレンスに参加し、治療方針に迷うような場合に他の専門医の意見を取り入れるよう心がけています。その他の取り組みとしては、早くからわきのリンパ節に明らかな転移のない方に対してセンチネルリンパ節生検を行い、術後QOLの改善に努めています。薬物療法では、標準治療を基本として、新しい治療法をふくんだ臨床試験の対象となる方には、参加を呼びかけています。

医療機関を選択する際には専門医を受診することはもちろんですが、「手術数が多い」「温存率が高い」といった表面的なデータだけでは、その病院が本当によいかどうか判断できないことを知っておく必要があります。担当医にあなたの標準治療がどういふものか、他に選択肢がないのかどうかを尋ねること、きちんとした治療をしてくれるかどうかを確認でき、納得の行く治療を受けられると思います。

●一九九一年大阪大学医学部卒業。大阪府立成人病センター外科、関西労災病院乳腺外科などを経て、〇七年より現職。